



24年7月23日(火)開催 新宿店職場懇話会報告

店長近藤さん、営業運営熊谷さん、営業計画松村さん、総務関川さんにご出席いただき懇話会を行いました。
第一四半期の商況、行動規範、業務改革、まち化についてなど多岐にわたり確認しました。

新宿店2030年にどうなる？

今後個客業とまち化は加速していく中、人事部の試算によると2030年には要員数が自然減で現状比約70%と予測。新宿店でも同様の自然減の見込み。そのために今から取り組んでいることがあります。

業務仕分け

今ある業務を精査し、以下の3つに仕分けする。

- ①社員が価値提供する業務
- ②社員以外でもできる業務
- ③自動化、DX化できる業務

役割再構築

守備範囲の見直し、エルダースタッフの働き方の見直し(お認め権限の整理)

現状の不の解消

総労働時間から働きかたにおける課題を見つけ、業務改善に繋げる
時間管理意識の醸成、ステージBの長時間労働傾向などの課題感あり

熊谷さんコメント:コストカットのための業務改革ではなく、将来の要員数を見据えたうえで未来につながる業務改革をしたい。やめる業務は何か？力を入れる業務は何か？やるなら誰がやるのかを真剣に考えないといけないフェーズに来ている。



近藤さんが考える新宿店のまち化とは？

これから館業から個客業に早急にシフトしていかないといけない。
その中でまち化へのトライアルを進めていく。例えば新宿店内や当社の施設にとどまらず、当社以外の施設においても三越伊勢丹グループの飲食店やスーパーを出店してみる。そこへ新宿店でつながった個客を送客し、個客への提案が増え、結果として暮らしが豊かになっていく。こんな循環をつくっていきたい。
それがグループ連邦へとつながり、そういったトライアルを重ねていくことにより、少しずつまち化へと向かっていく。そんなイメージを持っている。個客業への転換、その先のまち化の実現にとってもやりがいを感じている。伊勢丹新宿店として顧客への提供価値を拡大しながら、まちへの貢献も高めていきたい。



三越伊勢丹支部
Viva engage



IMGU LINE



キーワードは「繋がり」
うさね～